



真実は時に権力者によつてねじ曲げられ、事實が隠蔽される。今、国会で問題になつてゐる獸医学園問題もその加計学園問題もその一例のように思われる。最高権力者ともいえる総理大臣の関与が疑われている。権力側は「一切そのようなことはなく、すべて公平」と主張するが、メディアが伝えるものからは、國民も馬鹿ではない。

## 隠された真実

(第三次の捕虜収容所(上))



藤屋侃士  
(下松市幸ヶ丘)  
551

い。結果として、今回の東京都議会選挙のように、権力者側の政党が惨敗することとなつた。辛うじて民主主義が守られたような気があるのは私だけではあるまい。

さて、本題であるが、

このたび戦前の國家権力の恐ろしさを垣間見る展示会を見る機会を得た。それは広島県

三次市の図書館で開かれた「第三次捕虜収容所スケッチ展」である。

三次には戦前、捕虜収容所があつたが、国はこの存在を極秘にし、たため「秘密収容所」となり、地元の三次市民すら知らない人がほとんどであつたといふ。

もともとは保育園で、昭和十六年の真珠湾攻撃で太平洋戦争が始まると国に接收され、日本にいた外国人を本国に送還するためを本國に送還するための収容所となる。

そして、十七年十二月から終戦までの二年九ヶ月間、オランダ人の捕虜四十四人が収容されていたのである。

開戦の翌年、インドネシア近海を航行していたオランダの病院船が、日本海軍によつて拿捕(だほ)される。乗組員のうち四十四人が第三次の捕虜収容所に収容された。ほとんどが医師と看護婦であつた。

極めて地味な展示会だったが、



このオランダの病院船を拿捕し、日本船として使用

船長は非戦闘海域での不当な拿捕と一貫

して主張したが、日本はこれを無視し、極秘にしたため、終戦まで十字も知らなかつたといふ。

この問題は双方の主張が多少異なる点もあるが、「広島県警察一〇〇年史」の中にも記載されている。なぜ極秘にしたかは今日に至るも不明な点も多い。

船は日本海軍に拿捕され、日本船に改められ、終戦まで使用され、終戦まで使用されている。

そして今回、三次図

書館で初めてスケッチ展が開催された。地味な展示会であつたが、戦前の国家権力の一端を知ることになった。